

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2024 年 3 月 19 日	
所属部局・学年	野生動物研究センター・D1
氏 名	戸部 有紗

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
熊本県 熊本サルクチュアリ	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
動物福祉実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
2024 年 3 月 6 日 ~ 2024 年 3 月 9 日 (4 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター 平田聡教授	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の渡航では、動物福祉実習として、熊本サルクチュアリでのチンパンジー・ボノボの行動観察を中心とした活動を行った。	
・スケジュール	
3/6 集合/熊本サルクチュアリにて説明・準備/チンパンジー・ボノボの視察・給餌観察/夕飯買い出し 3/7 チンパンジー給餌体験/エンリッチメント(ハンモック)作製/チンパンジーアイトラッキング観察 3/8 チンパンジー行動実験体験/カラス小屋止まり木設置/ボノボアイトラッキング観察/イノシシ解体体験 3/9 片付け/帰宅	
・チンパンジー/ボノボについて	
実習前は、ボノボがチンパンジーに比べて優しいというイメージを漠然と持っていた。実習後にはそのイメージが覆され、ボノボの方が野生的で、いざというときに人に対して狂暴である印象を持った。ボノボの方が、行動の予測がしにくいというような猟奇的な部分があるように感じた。一方でアイトラッキングの実験や普段の行動については、チンパンジーの方が体を大きく使った激しい主張が目についた。また、過去チンパンジーによって噛み干切られた、チンパンジー個体の体の一部組織や、さらにかつて被害にあった人の指先などをホルマリン漬けにしたものが保管されており、チンパンジーの粗暴な面も目の当たりにした。見た目は同じような動物だが、性格的な側面では大きく異なっていることが改めて認識され、それぞれ別々の環境で別々の進化が起ってきたことを感じさせた。	
	類人猿ということもあり、他の動物の観察とはまた異なる印象を受けた。私たち人が彼らを観察しているのだが、一方でチンパンジー側からもこちらを観察されているような印象を様々な場面で感じた。あるメスの個体は、人間の性別を判断しているようで、女性に執拗に物を投げるといいう行為を行っていた。初めはある意味人に近いところを感じて少し怖いという印象を抱いたが、最終日にはそれぞれの個体の個性が分かりはじめ、反対に他の動物よりも親近感を覚えるようになった。また、エンリッチメントとして作成したハンモックを早速使ってくれ、他の動物よりも好奇心が強く、まずは試してみる、という性格が強いと感じた。
作製したハンモックを早速使うチンパンジー(左)	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

それぞれの行動実験では、チンパンジー/ボノボの知能などを客観的に感じる事ができて非常に興味深かった。アイトラッキングでは、ボノボの方が他個体の顔に視線を送ることが多く、コミュニケーションや認知にも2種の間で違いがあることを認識した。



アイトラッキングを受けるチンパンジー(左)とボノボ(右)

・カラスの小屋について

現在、残念ながら熊本サンクチュアリではカラスの飼育は行っていなかったが、今後の実験開始に備えてカラス小屋の整備を行った。カラスを捕獲する餌としてイノシシの肉を使っており、私たちが訪問した際にはアオサギがイノシシ肉の入った小屋の上に留まっている様子が観察できたが、残念ながらカラスの来訪はなかった。

また、この地域ではイノシシは害獣指定されており、捕獲が許可されている。偶然イノシシが捕獲されたとのことだったので、イノシシの解体を見学、体験させていただいた。イノシシのように大きな動物の解剖は初めての経験だったため、興味深く体験させていただいた。自分たちで解体した後は自宅に持ち帰っていただいたが、臭みが全くないことに驚いた。貴重な体験をさせていただき、板原氏には深く感謝する。



イノシシの解体の様子

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

実習中は、平田先生、板原氏、James 氏、大西氏、Spoon 氏にご尽力いただき、充実した日々を過ごせた。
重ねて深く感謝申し上げます。